

第4号

発行日 平成27年12月1日

NPO法人白河市体育協会広報

発行責任者 会長 櫻井和朋

事務局住所 白河市北中川原30

電話番号 29-8655

印刷所 南ワタベ印刷所

笑しらかわ顔



スポーツを通じて心身の健全な育成と

明るいまちづくりを推進しよう

秋の叙勲を受けて (わたしのスポーツ歴)

NPO法人白河市体育協会
会長 櫻井 和朋



開成山球場にて

このたび、はからずも、叙勲にあずかり、身に余る光栄と存じております。と同時に、偏に皆様のお蔭と心より感謝申し上げます。

11月初旬の受章、拜謁後、早速三森編集長より、「スポーツ歴」の執筆の依頼がありましたが、私は、体協役員皆様のような輝かしい実績もなく、気が進みませんでした。しかし、是非にということなので、筆をとりました。

思えば、小学校対抗ソフトボール大会に出場以来、現在まで、選手、監督、審判、役員として、60年間切れ目なく野球に携わってまいりました。

その間、特に印象的だった事は、④高校野球の監督時代、⑤甲子園大会、⑥平成7年福島国体成功に向けての取り組みでした。

④につきましては、本当に未熟な監督で、生徒の優れた資質を伸ばせず、申し訳なかったと思っております。後年、甲子園で審判をして思ったことですが、松井健次、深谷修司両投手、斎藤豊内野手などは、甲子園でも充分通用する力を持っていたのに、連れてゆけず今でも残念です。⑤監督退任後、すぐ、高校、大学、社会人の審判に登録しました。以後毎年100試合以上の審判を続け、昭和54年、第61回夏の甲子園大会に審判として出場しました。8月の暑い大阪で、早朝から日没まで連日21日間甲子園にカンヅメでした。日中も勉強の連続でしたが、夕食時、当時、高野連会長の佐迫達夫さんのお話は、とても味があり、一言も聞きもらすまいと真剣に聞いておりました。⑥福島国体時、私は県の審判部長として、上級審判員の育成、さらなる技術の向上に努力しました。年次計画を作成し、国体は何のトラブルもなく成功した時は、本当に安堵しました。

まとめになりますが、60年間、プレーできたのは、チームメイト、家族、そしてなによりも皆様の温かいご理解、ご支援があつての事と、厚くお礼申し上げます。



「教育長に就任して」

白河市教育委員会教育長 星 浩次

8月1日付けで白河市教育委員会教育長を拝命いたしました。本市の教育発展のため最善を尽くして参りますので、よろしくお願いいたします。

さて、貴協会におかれましては、昭和35年の創立以来、長きにわたり本市のスポーツ振興にご尽力を賜り、衷心より敬意と感謝を申し上げます。

スポーツは、青少年の健全育成や高齢者の生きがいづくり、生活習慣病の予防、地域住民の交流機会の創出など重要な役割を果たしております。特に、本県では、東日本大震災以降、肥満傾向児の出現率が全国平均を大きく上回るなど、子どもの体力づくりの必要性が声高に叫ばれております。また、2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催が予定されており、今後、スポーツへの関心は日増しに高まるとともに、スポーツ界を取り巻く環境は、大きく変化することと思っております。

市といたしましても、生涯スポーツの裾野の拡大を目的として、各種大会の開催や体育施設の整備に努めることはもとより、東京オリンピック・パラリンピックへも積極的に参画し、競技スポーツの向上に努めて参りたいと思っております。

また、貴協会と連携を図りながら、「する」、「見る」、「支える」それぞれのスポーツの振興を図り、市民がスポーツを通じて幸福で豊かな生活を送ることができるまちづくりを推進して参りますので、より一層のご尽力とご協力をお願いいたします。

結びに、貴協会のさらなる発展をお祈り申し上げ、就任のあいさつといたします。



「表郷地区体育協会の活動状況について」

NPO法人白河市体育協会副会長 矢口 恵
合併して十年が立ち、体育協会も一つと成り、NPO法人白河市体育協会としてスタートしました。

今までは、役所の職員と共に行って来ましたが、これからは、NPO法人白河市体育協会事務局の人達と連絡を取りながら運営をしてゆくの、今までよりもスムーズに色々なことができるのではないのでしょうか。それでは、表郷地区の活動を紹介します。

5月：ティーボール教室（小学生を対象に指導しました。参加者32名）

7月：地区親善ゴルフ大会（地域の会社・個人から協賛いただき開催、参加者60名）

8月上旬：ティーボール大会（地区対抗で9チーム参加）

地区対抗野球大会（日曜日に1,2回戦、準決、決勝は、ナイター開催、12チーム参加）

8月下旬：壮年ソフトボール大会（地区対抗で、13チーム参加）

家庭バレーボール大会（地区対抗で、13チーム参加）

9月：第20回白河天狗山旗争奪壮年軟式野球大会の協力

最後に、少子高齢化が進み、地区対抗の試合は、となりの地区と共同で参加しながら、参加チームを減らさないよう大会を盛り上げています。どの大会も、半世紀以上続いている大会であり、表郷地区の皆様と共に楽しいスポーツ、活力のある地域を造る為に、スポーツを通して頑張っていきますので、今後とも温かいご指導、ご鞭撻を心からお願いいたします。

「白河市内各中学校の活動状況」



白河市立白河中央中学校 小針 光子

白河中央中学校は、全校生徒511名、18クラスの大規模校です。今年12月、45年間慣れ親しんできた校舎に別れを告げ、新校舎へ移転する予定です。

生徒は優しく素直で、毎日の学校生活を明るく元気に過ごしています。全生徒が部活動に加入しており、その中でも80%が運動部に所属しています。「目標は県の旗(ナンバー1)、目的は人づくり」を合い言葉に、教師も生徒も一丸となって毎日の活動をがんばっています。

保健体育の学習では、全学年男女ともに、休み時間から準備運動を開始し、授業を進めています。本校では、準備運動と800Mのランニングを全校生で行っています。東日本大震災の影響で、外で遊ぶことができずに小学生の時期を過ごした子どもたちに少しでも体力をつけさせたいという思いがあります。今年の体力テストでは少しずつではありますが、数値も向上してきており、今後も継続してまいります。

10月には、校内バレーボール大会を一日行事で行いました。校庭いっぱいにバレーコートが6面張り、青空の下で行ったバレーボール大会は、生徒の心も開放され、クラスの絆も深める良い機会となりました。

今後も日々の体育の授業、部活動、行事を大切にし、生涯にわたり運動に親しむ態度を育ててまいります。



白河市立白河第二中学校 馬場 正和

白河第二中学校の体育的活動の状況についてですが、まず保健体育の授業を通して体力を総合的に向上できるように、毎時間の授業において独自のプログラムを作り、体力向上に努めています。さらにスポーツテストの結果が出た後には体力的な陥没点を探り出し、それを補う運動内容を考えていく予定です。

さらに体力向上を目指し、朝練習にも取り組んでいます。主に長距離走をメイン

に練習を行っていますが、陸上部の長距離ブロックの生徒たちだけでなく、野球部・バレーボール部・水泳部・ソフトテニス部など幅広い部活動から集まって練習を行っています。特設駅伝部として駅伝大会を目指して練習に励む生徒や、ここで培った基礎体力を自分の部活動で活かせるよう取り組んでいる生徒など、個々の目標や目的に応じて毎朝一生懸命体力向上に向けて取り組んでいます。

そこで、そのなかで力をつけてきた生徒や大会を目指したい生徒が、学校の代表として中体連の駅伝大会に参加していくという流れができています。その成果が徐々に現れてきており、今年度の中体連東西しらかわ支部の駅伝大会においては男子8位、女子6位という男女アベック入賞を果たすことができました。



白河市立白河南中学校 清水 恒

白河南中学校では本県の課題でもある体力の向上を推進するために、保健体育の授業はもとより、陸上部と特設陸上部を中心として各運動部の有志が参加する朝練習を行っています。朝練習に参加することで、早起きをし朝食を摂取するという望ましい生活習慣が形成されることにもつながります。

年間を通した継続的な取り組みの成果もあり、本校は全校生徒202名（男子

102名、女子100名）の小規模校ながら、5月に行われた東西陸上大会では男子が共通400m、2・3年1500m、共通3000m、走幅跳、1・2年4×100mRの5種目において県大会出場を果たすとともに、他7種目で入賞することができました。

また、特設水泳部でも200m個人メドレーで県大会出場を果たすことができました。

さらに9月に行われた東西しらかわ駅伝大会では女子が8位入賞、男子は2位となり県大会出場を果たし県大会でも10位となりました。

これらの成果を励みとし、今後も継続して取り組んでいきたいと考えています。

また、学校行事では校内マラソン大会やスポーツ大会を行い、全生徒が運動に親しみ、体を動かす喜びや達成感をもたらす機会を設けています。今後とも心身両面の発達を促し、生涯にわたって豊かなスポーツライフを営むための基礎となるような学校体育を行っていききたいと考えています。



白河市立五箇中学校 平松 大夢

本校では体力向上に向けて、毎週火・木曜日に放課後30分間全校生でトレーニングを行っています。内容は走力、筋力、投力など様々な能力が向上するようなサーキットトレーニングです。生徒は一生懸命に取り組んでおり、終わった後は達成感のある表情をしています。

また特設陸上部としての活動を、朝40分間行っています。生徒が自分で種目を選択し、夏の中体連の大会に向けて練習を行っています。加えて5月には特設水泳部が、夏休みからは特設駅伝部が活動を行っています。全校生50名と小規模校なので、複数の部活動を掛け持っている生徒が何名もいますが、一生懸命部活動に取り組んでいます。特設陸上部に関しては、今年県大会に7名が出場し、少しずつ力をつけてきています。また本校の伝統行事の、校内駅伝大会は今年で59回目を迎えました。大会2週間前から練習を始め、どの生徒も全力で練習に取り組んでいました。生徒だけではなく、保護者チームや地元の消防団チーム、小学生も参加し、五箇地区13.5kmを10区間により走るこの競技は、地域の方も楽しみにしている行事の1つとなっています。今後も生徒の体力向上に向けて、学校だけではなく、保護者や地域の方と連携して様々なことに取り組んでいきたいと思ひます。



(1、2年生が選手、3年は選手もしくはボランティア)する「しらかわ郷里マラソン」においても生徒が成果を確認できる絶好の機会となっています。

常設の運動部は8つ(野球、女子バスケットボール、女子バレーボール、剣道、男子卓球、男子ソフトテニス、女子ソフトテニス、男女バドミントン)の部活動があり、どの部活動も熱心に活動しており、県はもとより、東北レベルの大会へも出場を果たし活躍しています。

保健体育の授業では、毎時間に「体づくり運動」(縄跳びやサーキットトレーニングなど)を取り入れ十分な運動量を確保すると同時に、周りお互いに競い合ったり楽しんで運動に親しんだりできる場面を設定して、生徒たちの活発かつ自主的な活動になるようにしています。

白河市立東中学校 緑川 祐介

東中学校では、4月から年間を通して特設陸上・駅伝部の活動に加えて、希望者を対象に平日の7時より早朝ランニングを実施しています。今年で4年目に突入するこの取り組みは、全校生徒の約3分の1が常時1年を通して参加しており、多いときには約100名(全校生190名)を超えることもあります。こうした取り組みは、体育の授業や部活動の基礎体力向上の一助になっているほか、毎年9月に行われ、全校生が参加



白河市立東北中学校 橋本美智子

本校には1年生45名、2年生55名、3年生53名、計153名の生徒が在籍しています。「生徒・保護者の願いや期待に応え一人ひとりの夢と希望を実現する学校」を目指し、教育活動に励んでいるところです。

本校の重点目標のひとつに「心身の健康増進・体力の向上」があります。目標達成に向けて、体育の授業、体育以外の教科、保健・安全・給食指導において、

心身ともに健康で安全な生活を営むことができる生徒を育てること、そして運動の特性に応じた技能を身につけ、体力の向上を図ることに力を入れて取り組んでいます。

また、部活動も大変盛んです。本校には、野球部、サッカー部、ソフトボール部、バレーボール部、卓球部があります。全校生が部活動に所属しています。どの部活動も心身の健全な育成を目的として熱心に活動しています。今年度は、バレーボール部が県南中学校総合体育大会で優勝し、卓球部女子の2ペアが個人ダブルスでベスト8になり、県大会に出場しました。また、東西しらかわ中学校新人総合体育大会では、バレーボール部が優勝、サッカー部が3位、卓球部女子個人ダブルスで1ペアが3位となりました。各部とも、目標達成に向けて放課後や休日に一生懸命練習しています。

今後も、全職員で生徒一人ひとりの心身の健康増進そして体力の向上に取り組んでいきたいと考えています。



白河市立大信中学校 大吉 正之

大信中学校は全校生徒138人の小規模校で、山々に囲まれた緑豊かな場所にあります。運動部は常設部として野球部、バドミントン部男子、ソフトテニス部男女、バレーボール部女子、卓球部女子があります。それぞれ県大会上位入賞を目標に日々頑張っています。

本校では、一年間を通して特設駅伝部の練習を平日の朝に実施しています。毎年50名位の部員が参加しています。部員の中には体力向上を目的とした部員もいます。

レベルは選手コース、準選手コース、体力づくりの三つのコースに分けてトレーニングを行っています。部員のほとんどは運動部に所属している生徒ですが、音楽部の生徒も参加しています。

東西しらかわ駅伝大会では、今年、男子が七位に入賞し、昨年、一昨年に女子は八位入賞することができました。また、大会当日は選手だけでなく練習に参加してきた部員全員が会場で応援を行っています。レースを直に見ることで「コースを走ってみたい」という部員が出てきています。

他にも特設陸上部、特設水泳部があり、今年も県大会に出場することができました。生徒数が少ない学校ではありますが、特設部を掛け持ちするなどいろいろなことにチャレンジしている生徒が多いです。それが大信中学校の特色でもあります。



白河市立表郷中学校 五十嵐 輝

表郷中学校では野球、女子ソフトテニス、男子バスケットボール、女子バレーボール、男女剣道、男女卓球、特設陸上、特設駅伝の運動部が活動を行っています。

特設陸上部の生徒は毎朝校庭でランニングを行い、陸上・駅伝大会に向け体力づくりを行っています。今年度の東西しらかわ陸上大会では男子低学年リレーと1年男子100m、3年女子100mで県大会出場を果たしました。夏場の

駅伝練習は校庭や学校周辺の2kmコース、3kmコースを利用して練習を行っています。今年は学区内にあるゴルフ場周辺のコースを使用するなどのご協力もいただきアップダウンに対応する力をつけるための練習を積むことができました。

中体連県南大会では、野球と剣道男子団体が3位に入賞しました。剣道男子は県大会に出場しベスト8に入る活躍をしました。

新人戦ではバレーボールと剣道が県大会に出場しました。バレーボールは県南地区大会を見事突破し新人戦県大会初出場を果たしました。県大会では惜しくも1回戦で敗退してしまいましたが健闘しました。剣道は女子個人戦で県大会3位に入賞しました。他の部活動も来年度の中体連大会に向けて、練習に一生懸命取り組み、各種大会にも参加し実力に磨きをかけています。何事にもひたむきに取り組む姿が本校の強みだと感じています。運動を通して、仲間の大切さや一生懸命努力することの大切さを学び、豊かな人間づくりを目指して今後も取り組んでいきたいと思っています。



「第14回民友旗争奪福島県選暦軟式野球選手権大会について」

白河楽翁クラブ代表

NPO法人白河市体育協会副会長 中上 徹

第14回民友旗争奪福島県選暦軟式野球選手権大会は、平成27年10月10日（土）～12日（月）の3日間、参加チームは21チーム、場所は若松市営第二球場他3球場を使用し、我が楽翁クラブは、1試合目、矢吹シルバー野球クラブに8対6で勝利し、2戦目は、いわき選暦野球クラブに延長の末抽選に手勝、3戦目は、会津若松球友会に5対1で勝ち進み、決勝は、川俣シルクスターズに23対2と全員野球で優勝を果たしました。

来年は、選暦選抜全国大会の福島代表として、9月に仙台市大会に出場することが決定。5年前の故穂積稔監督以来の全国大会出場となります。また、今年は山形県米沢市の城下町大会にて優勝、投手の鈴木登・菅森肇君の頑張りででした。さらに、6月20日の第9回全労済選暦軟式野球大会では、菅森肇投手が県営あずま球場で、いわきDBCを相手に、完全試合を達成。投球回数7回、投球数64球、試合時間1時間49分、三振3、内野ゴロ13、内野フライ3、外野フライ2、アウト21、この記録は、福島選暦野球25年目で初めての記録である。

今年度の成績が良かったのは、2月から表郷室内練習場を借り、故牧田監督、古川監督、キャプテン阿部、池田稔、コーチ鈴木登選手の指導の賜物です。7月に亡くなりました故牧田監督の墓前に優勝旗を持ち優勝報告ができたことが何よりの感謝でした。

来年の目標が決まり、年をとる余裕もありません。健康第一、相互の友情、信頼、また、全国大会に向けチーム一丸となり一勝の夢に突き進みます。



「第20回しらかわ駅伝競走大会について」

白河市教育委員会

生涯学習スポーツ課長 岡崎 貞男

はじめに、本大会の開催に際しまして、ご協力をいただきました貴協会員の皆様方に心から感謝を申し上げます。本大会は、第20回の記念大会を

迎え、参加者も1,800人を超える一大スポーツイベントとなりました。ここまでの大会へと成長するに至ったのは、ひとえに櫻井会長を始めとする皆様方のご尽力の賜物であります。

本大会は、平成7年の「ふくしま国体」を契機に、その翌年から「駅伝のまち しらかわ」を全国へアピールする大会として開催したのが始まりとなっております。開催時期が都大路県予選の1ヶ月前ということもあり、全国高校駅伝の前哨戦として、北海道から静岡県までの東日本各地から強豪校が集まる大会となりました。このことは、県南地区の競技力の向上に大きく寄与し、未来のトップアスリートの発掘へと繋がっていると思います。

また、今回は、福島県にゆかりのある京セラ女子陸上競技部監督の佐藤敦之氏、コーチの佐藤美保氏、早稲田大学競走部駅伝監督の相楽豊氏、駒澤大学陸上競技部コーチの藤田敦史氏の4氏をお招きしてトークショーを開催いたしました。これまで、世界の舞台で活躍し、現在も日本の陸上競技界を牽引する方々のお話は、参加した選手や関係者の心に強く響いたことと思います。

最後に、参加選手が「参加してよかった」と思えるような大会運営を心掛けたいと思いますので、貴協会におかれましても、より一層のご尽力をくださいますようお願い申し上げます。



「スポーツフェスティバル 軽食コーナーを担当して」

体育協会女性委員会委員長

NPO法人白河市体育協会副会長 入谷 みちこ

女性委員会でスポーツフェスティバル時に軽食コーナーを担当させていただいて、今年で10年目になりました。最初は、

手探り状態で、まずは何をメニューにするから始まり、皆さんに手軽に買ってもらえるもので、焼きそば・玉こん・コーヒー・子供に人気のフランクフルトと決まり、売れるか売れないか半信半疑でとにかく実行するのみで始まりました。毎年このコーナーを担当しているうちに、いろいろアイデアが出され、テーブルだけでは殺風景なのでテーブルクロスを持って来るなど、次から次へと良い意見がだされ、連係プレー、強調心が芽生えてきました。

数年前から、体協の担当者に、焼きそば・玉こん・フランクフルトの注文を受け、作る量は倍になり大変ですが、やりがいもあり、だいたい慣れてきました。今では、販売が始まる前から、注文をいただいたり、注文取に行く「待っていたよ」と快く買ってくださいます。また、焼きそばは、冷めても美味しかったとの声が多くなり、担当者としてこのような言葉を頂き大変うれしい状況です。焼きそばの味が定着するのに、4年かかりました。

これからも、体育協会事務局にお世話になりながら、女性委員会全員でおいしさを求めて頑張ってもらいますので、今後ともよろしく願いいたします。

平成27年度NPO法人白河市体育協会賛助会員

昨年度より、財源基盤の確立と強化のために募集させていただいた賛助会員にご賛同とご支援をいただき誠にありがとうございます。心より御礼申し上げます。おかげさまで、ご協力賜りました賛助会費は、本会の事業推進の経費として有効に活用させていただいております。活動を継続しさらに充実させるために、安定的な自主財源の確保が必要になりますので、今後ともよろしくご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

〈団体会員〉

南あおき	南アルファ	南エビナ
南大高重機	会星産業株式会社	南社設計
NPO法人カルチャーネットワーク	協業組合白河地方リサイクルセンター	南共和建築
ケンサーチ株	県南土木工業株	南コウシン
こちや自動車工業株	さくらい	サクラ工業株
南サン・ペンディング白河	医療法人社団 慈泉会	南白河衛生社
南白河園芸総合センター	NPO法人白河ゴルフ倶楽部	白河商事株
白河信用金庫	白河農業協同組合	南シンエイリンクス
新白河ゴルフ倶楽部南エスジージー	南常陽銀行白河支店	すし酒屋 双葉
南鈴木建設	南須藤建設工業	南総合企画
南大東銀行白河支店	大東土木株	高橋自動車工業株
南高山不動産	南忠光自動車整備工場	南田ノ上製作所・白河工場
南でんき倶楽部	南東邦銀行白河支店	南中龍
日工技研株	日本工機株式会社白河製造所	日本録機工業株式会社白河工場
南梅寿	医療法人社団 博英会	南ひがし振興公社
南樋口建設	南福島銀行白河支店	南小松フォークリフト株
ふじ印刷株	藤田建設工業株	南松本工務店
南水啓木材	南緑川産業	南村上運動員店白河店
南山田屋旅館	よこむら整形外科クリニック	※他に匿名希望 4団体

〈個人会員〉

青村 修明 (青村歯科医院)	荒谷 俊彦 (白河高原フィールドアーチェリーレンジ)	有賀 初子 (愛宕山パークゴルフ場)
今井 令雄	大高 貞男	近藤 寛 (近藤種苗店)
斎藤 和夫	斎藤 慎一	土田 真守
坂目隆雄 (坂目整骨カイロプラティック治療院)	安田 豊	矢次 幸彦 (矢次商店)

※他に匿名希望 6名

(平成27年4月1日から平成27年12月1日までご賛同いただいた方を掲載 五十音順・敬称略)

編集後記

広報誌の第4号の発行となりました。今回は、市内各中学校のスポーツ活動状況について掲載させていただき、各中学校の取組み状況が把握できたことは、大変良かったことであると考えます。

今後も、定期的に広報誌の発行を続けてまいりますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

(広報担当：三森一男、事務局 高橋利夫・深谷光男・松崎真由美)